

Review of Operations

主要事業の状況



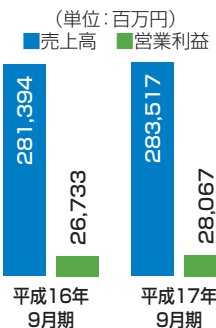
情報機器事業

MFP事業では、カラーMFPの新製品を中心に国内外で販売が好調に推移し、増収増益。プリンタ事業では、カラープリンタの価格競争が厳しく、減収減益。事業全体では売上横ばいながら利益は5%の増益。

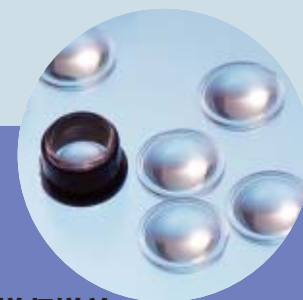
カラーMFP: 平成17年2月に発売した新製品「bizhub(ビズハブ)C450」が、各国市場で販売好調。また6月に「bizhub C351」を、7月には「bizhub C250」を投入するなどラインアップを強化。カラーMFPの販売台数は前年同期比82%増。

モノクロMFP: 平成17年7月には、商業用印刷市場をターゲットとした高速MFP「bizhub PRO(ビズハブ プロ)920」を発売。ラインアップの強化により、販売台数は前年同期比34%増。

カラープリンタ: 低速領域では「magicolor(マジカラー)2400」シリーズを、高速領域では「magicolor 5400」シリーズを中心に販売拡大に取り組むが、価格競争が激化し事業収益は悪化。



オプト事業



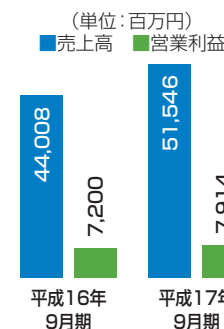
液晶材料事業の好調により、増収増益。

液晶偏光板用保護フィルム: 視野角拡大フィルムなど、高機能製品を中心に大幅に数量拡大。

光ピックアップレンズ: 調整局面が続いていたCD/DVD用ピックアップレンズは、平成16年並みのレベルに回復。

レンズユニット事業: ビデオカメラ用レンズユニットが好調に推移し、販売拡大。

カメラ付携帯電話用カメラユニット: マイクロカメラが携帯電話メーカーの新機種に採用されたことにより、販売拡大。



注: 売上高はグループ内取引を除いた外部顧客に対する売上高です。



フォトイメージング事業

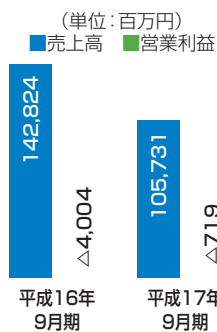
カラーフィルム・印画紙など、写真感光材料分野の需要減少が加速化。デジタルカメラは価格競争は厳しいが、高付加価値製品に絞り込み損失幅は縮小。全体では大きく減収となるが、損益は改善。

カラーフィルム：デジタル化の影響で欧米市場での需要減少が加速化。また、アジア・インド・ロシア・中東などでも在庫調整の影響で販売が減少し、販売数量は全体では22%の減少。

デジタルミラボ機：価格競争が激化し、販売台数が48%減少。

印画紙：採算性重視で取引を峻別した結果、販売数量は22%減。

デジタルカメラ：デジタル一眼レフ「α Sweet DIGITAL (アルファ・スウィート・デジタル)」など、高付加価値製品中心にラインアップを絞り込み、減収ながら収益は改善。

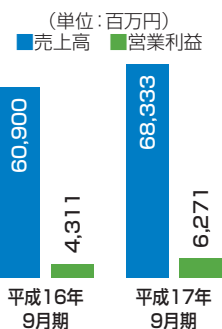


メディカル&グラフィック事業

医療分野、印刷分野ともに堅調に推移し、増収増益。

医療分野：国内外ともにデジタルX線入出力機器や、それに対応したドライフィルムが好調に推移。

印刷分野：印刷フィルムの需要は減少するが、色校正システムやデジタルカラー印刷機などのデジタル機器の販売に注力。



計測機器事業

色計測、三次元計測機器を中心に堅調に推移。

大型液晶テレビなど、フラットパネルディスプレイ業界向けの色計測機器の販売が好調に推移。三次元計測機器も販売拡大に取り組む。

